

オレンジだらけの こども縁日

国際こども・福祉カレッジ 福祉心理学科1年
活動報告

私たちは、国際こども・福祉力レッジ
福祉心理学科の1年生です。

専門学校に通いながら、
日本福祉大学通信課程に在籍し、
国家資格である「社会福祉士」や
「精神保健福祉士」の取得を目指し、
福祉を学んでいます。



こどもと福祉で
みんなHAPPY!!

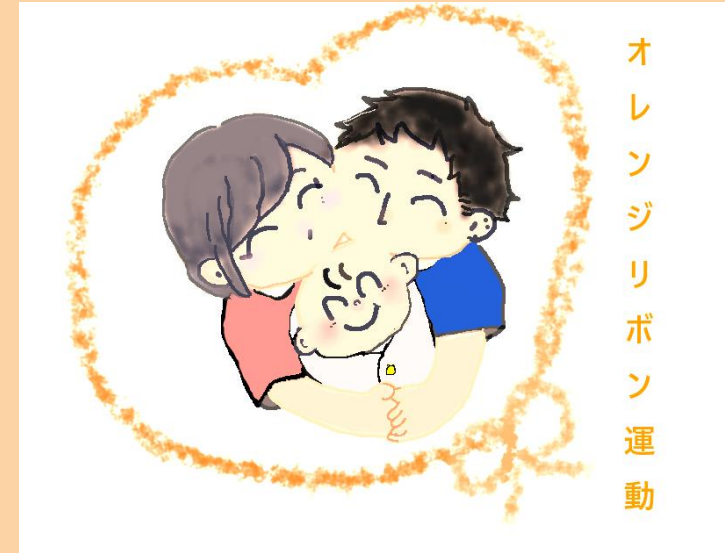
2019年の活動 『夢みるマルシェinにいがた』にて



去年は、マルシェで啓発活動を行いました。

活動報告内容

- 準備段階
- 「オレンジだらけのこども縁日」 実施内容
- 私たちが感じたこと



準備段階



まずは、子ども虐待について、
自分たちで調べました。



国連も危機感表明



「DV相談+」の電話相談を受ける女性（ベトナム、20日、都内）（画像の一部を加工しています）

新型コロナウイルスの感染拡大により、各国ではロックダウン（都市封鎖）や高額の罰金を科すなど厳しい外出禁止措置が取られている。フランスでは外出禁止となった3月17日以降、DV被害が一週間で30%以上増え、英国では電話相談が65%も増えたとの報道がある。

こうした事態に国連のグテレス事務総長は、5日の声明の中で「多くの女性や女児にとって、最も安全であるべき場所が危機に迫っている」との危機感を表明し、世界的にDVが増加しているとして、世界各国に対応

日本 SNSなど新たな相談体制拡充

「DV相談+」の問い合わせは0120・249・889まで

内閣府はDVの相談体制を拡充するため、20日から新事業「DV相談+」をスタートさせた。既存の全国共通ダイヤル「DV相談ナビ」は、最寄りの配偶者暴力相談支援センターにつながるものだが、各センターの受付時間内に限られていた。このため、新事業ではSNS（会員制交流サイト）やメールでの相談のほか、24時間体制の電話相談が導入されている。あす5月1日からは10カ国語の多言語対応も始まる。

を強く求めた。

党ストーリー・DV・性暴力等対策推進プロジェクトチーム座長

山本 香苗 参院議員



「ステイホーム」が呼び掛けられている一斉、家に居場所がなく、苦しんでいる人がいます。公明党は3月31日の政府への緊急提言の中で、DVや虐待などの相談体制の拡充を求めました。

DVについては、電話（24時間無料）、メールに加え、初めてSNSを活用した相談体制が開発されました。5月から各自治体で給付が始まる「特別定額給付金」について、DVによって住居を移

さず避難している方が、避難先の自治体で受け取れるよう、取り組みます。

学校休校が続く中、多くの子どもが食料や学習支援などが休止となり、居場所をなくしている子どもや若者たちがいます。先ず、「子ども」の見守り強化アクションプラン」が公表されましたが、子どもだけでなく家庭全体を見守る取り組みが必要です。安心して過せる居場所の確保を含め全力で取り組みます。

被害者の居場所確保は急務

新型コロナ

新型コロナウイルスの影響による外出自粛や経済・雇用情勢の悪化などにより、DV（配偶者などからの暴力）や児童虐待の増加が懸念されている。海外ではDV被害が増加しており、日本政府も防止策を強化する。相談支援の現場から実情を探った。

外出自粛でDV増加の懸念

実際に相談や通報のあった事例

DV（夫から妻への暴力）

- マスクが入手できなかったことに腹を立て殴ったり、ののしる
- テレビのチャンネル争いで殴る
- 話し掛けてもずっと無視する
- イライラして、ちょっとしたことで大声を出す
- 夫婦とも在宅勤務にもかかわらず、「おれの方が稼いでいる」と身の周りの世話をさせる



児童虐待

- 子どもが自宅で勉強しないため大声で叱る
- 兄弟げんかが頻発するため大声で怒鳴る
- 在宅勤務中に夫婦が子どもの前で激しく口論する



「外出自粛で家族が一緒にいる時間が増え、ささいなことで言い争いが多くなったとか、経済的不安から夫がイライラしているといった相談が増加している」。こう話すのは、DV被害者の支援に取り組む一般社団法人「エープラス」の吉澤真生代表理事だ。在宅勤務で夫が家にいるために、相談できない妻も多く、問法入では今月12日からLINEによる相談を受

暴言、暴力、虐待

け付けたところ、暴言や暴力に関するものなど、多い日には1日40件の声が寄せられたという。

日本では夫がつらい時に、それを支えるのが妻の役目という風潮が強いと言われ、代表理事は指摘。その一方で、「大要なのは女性も同じ。なぜ家族で力を合わせて乗り越えようとならないのか。精神的暴力もDVだ」と認識がまだまだ薄い」と警鐘を鳴らす。

子育てに関する相談を受け付けている社会福祉法人「子ども虐待防止センター」にも、3月中旬以降、新型コロナウイルスに関連する相談が増え始めている。担当者にすると、子どもとの外出を非難されたケースや、乳幼児の生活リズムが崩れて親自身も眠れないといった相談が目立つという。同センターは「先づきが見過せない中で、イラつき、やるせないのあまりを感じる。ギリギリの精神状態で、お母さん方は虐待になる一歩手前で必死に踏ん張っている。何かうまくいかないと感じたら、遠慮なく各種窓口相談してほしい」と呼び掛ける。

「情報出〜」

東京や大阪、北海道の児童相談所や子育て支援担当課に問い合わせたところ、児童虐待の受理件数に大きな変化はなく、逆に減少している地域もあった。北海道中央児童相談所の担当者によると、学校休校の長期化や、保健師などの交流がなくなったことで発見の機会が激減し、情報が出にくくなっているのではないかと現状に懸念を示す。

“在宅”続き 発見遅れも

コロナによる子ども虐待増加をピックアップ

誰に？
どのように？
どうなってほしい？



子どもがいる親、将来親になる若者に
イベントを通じて
子ども虐待について知ってほしい！



親子が外に出て気分転換できるような、
親子向けイベントを開催したいと思うようになりました。

イベントをやりたいの
ですが...



いい人がいますよ！



新潟市地域課

イベントに協力してもらえる人を紹介してもらうため
新潟市地域課に電話をしました。



新潟市が事業運営の委託をしている
平田さんの紹介を受けました

MUSIC DROP

平田英治さん

- イベントを企画運営
- 音楽事務所の経営
- 地元からミュージシャンを輩出
- 音楽を通して地域活性化を実践

お祭りがしたい！！

オレンジ全開で…

開催場所は…

アルビとコラボしたい！

SNSを活用する？



打ち合わせでユニークな意見やアイデアが出ました。
そんな中「オレンジだらけのこども縁日」が出ました。





オレンジだらけ の こども縁日

こうして平田さんが主催する、
「はじめて、しもまち。」
という地域活性プロジェクトで、
「おれんじだらけのこども縁日」
を開催することが決定しました。

「オレンジだらけのこども縁日」 実施内容

コロナ対策



- 検温
- アルコール消毒
- 代表者の氏名、連絡先の把握
- 20分交代制
- ブース内のソーシャルディスタンス

ドレスコード

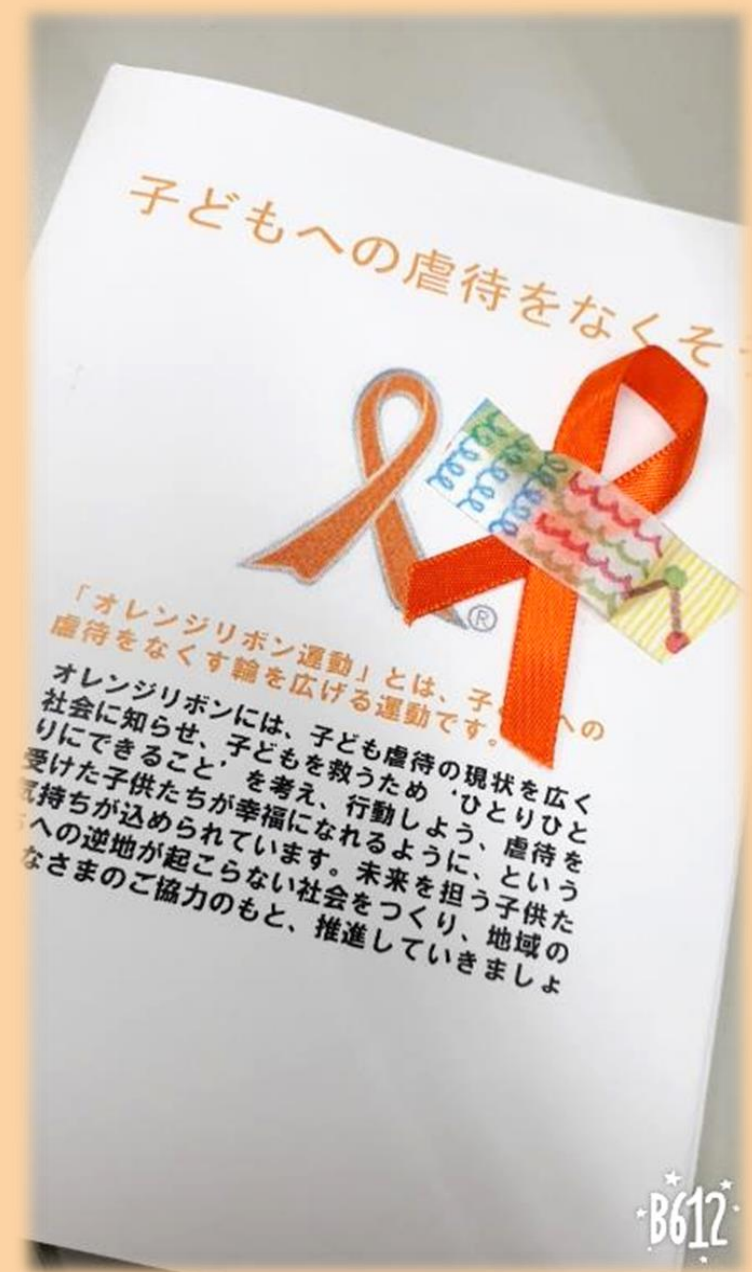


オレンジのリボンをネクタイに見立て、
おそろいの白シャツを着用しました



配布用冊子を作成

冊子にオレンジリボンをつけて、
受付で渡しました。



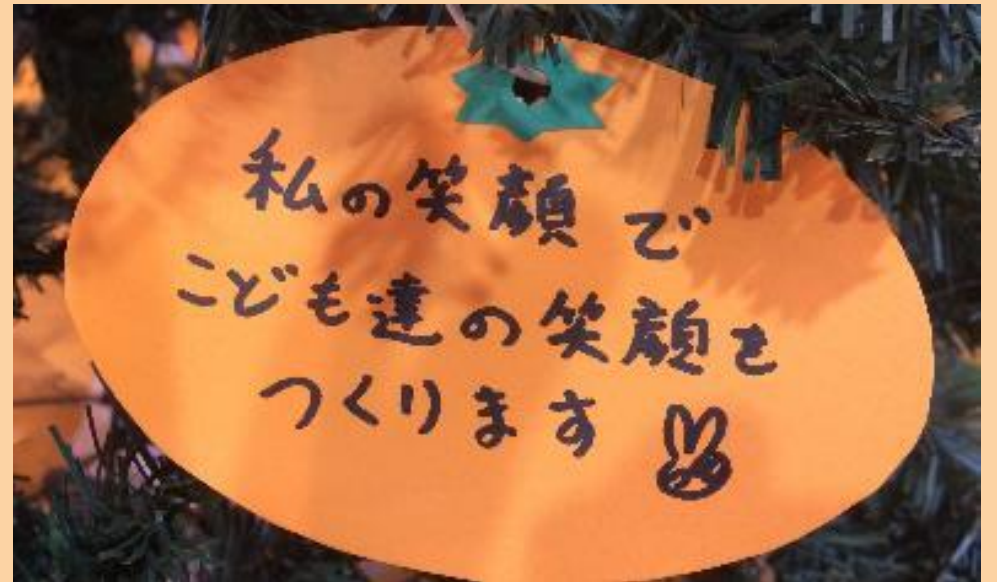
縁日内のブース

- スティックバルーン
- 輪投げ
- ぶよぶよすくい

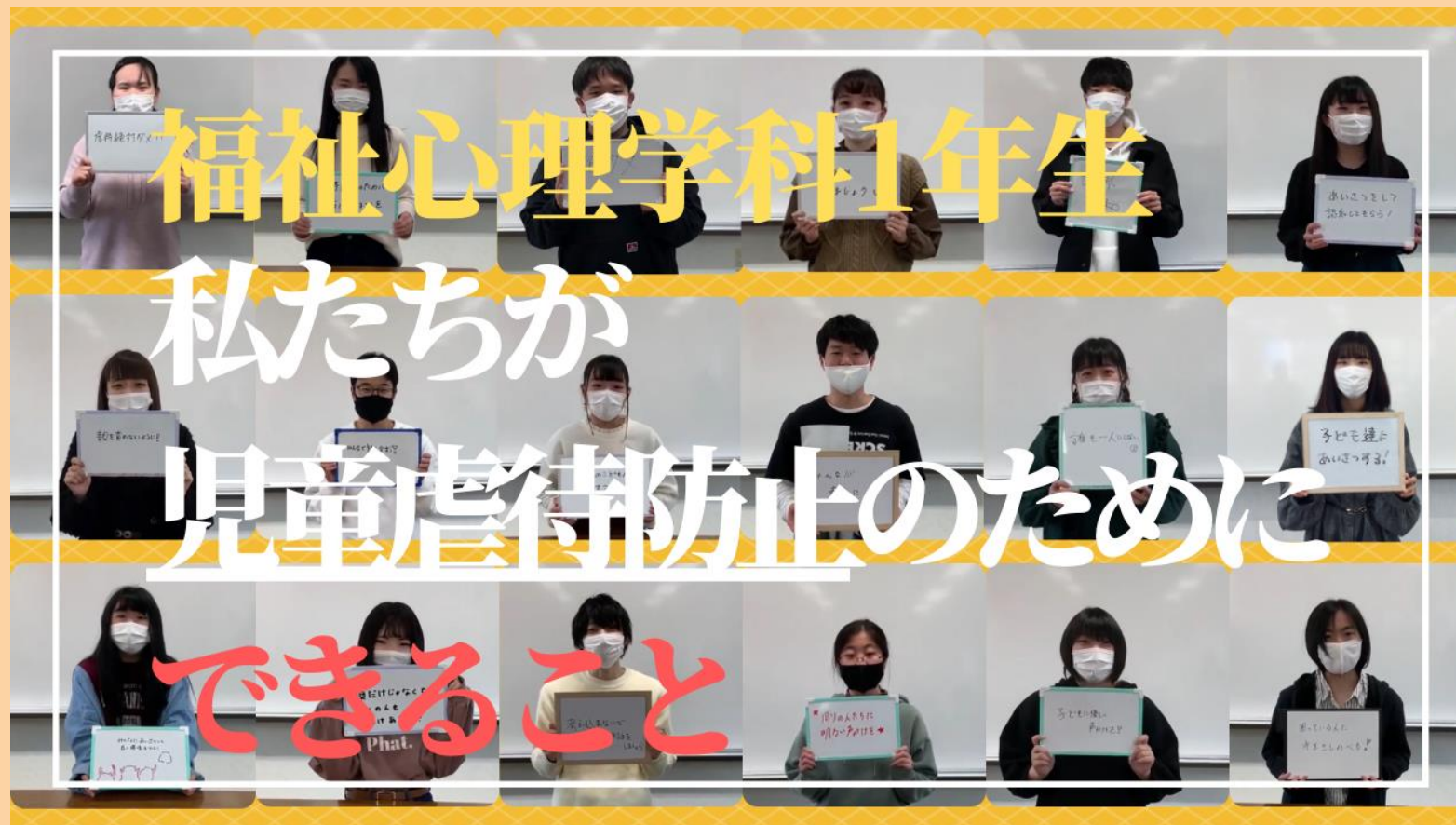


メッセージカード募集

オレンジに見立てたメッセージカードに、
子ども虐待防止についてのメッセージを募りました。



さらに、若者や子どもと関わる機会が少ない世代に向け、SNS（YouTube、Instagram）で啓発活動を行いました。





動画

https://youtu.be/VHhwdKcj_XY

私達が感じたこと

- 広報について
- 継続の大切さ
- 人とのつながりについて



広報について

縁日の広報を子ども虐待防止活動を前面に出さずに行いました。
知ってもらう機会としては良かったかもしれませんが、
子ども虐待について関心を持って、来てもらうためには、
どのように広報を行えばいいか考えるきっかけになりました。



継続の大切さ

「知ってもらおう」だけでは
子ども虐待は解決しない

子ども虐待をなくすためには、
何度も継続していくことで、
少しずつ理解を深めてもらうことが大切であると、
この活動を通して感じました。



人とのつながりについて

さまざまな方々の協力により、
オレンジリボン運動を行うことができました。



このような方々と、
来年、再来年も後輩たちが一緒に活動を行い、
つながりを持ち続けることで、
さらに子ども虐待防止の輪が広がり、
この学校の伝統のようになればいいなと感じました。





閲覧ありがとうございました！